

チョーライ病院向け病院運営・ 管理能力向上支援プロジェクト

2018年3月

1. 和田耕治チーフアドバイザーの任期終了・帰国

プロジェクトが開始されて早々の2017年1月より約1年3か月にわたり、プロジェクト・チーフアドバイザーを務めてきました和田耕治長期専門家が、3月23日をもって任期終了し、帰国しました。

和田チーフアドバイザーは、プロジェクトの立ち上げからベースライン調査の完了まで、総括として専門家チームの取りまとめに従事しました。チーフアドバイザーの後任は、5月をめどに派遣される予定です。



プロジェクト合同調整委員会(JCC)で発表する
和田チーフアドバイザー (2017年10月)

退任ご挨拶

チーフアドバイザー 和田 耕治

プロジェクトが始まり、1年3ヶ月が経ちます。皆さんのおかげで、多くの活動が予定通り進んでいます。

私は、この度、子供の教育など家族の都合もあり、任期どおり3月に帰国します。

私の後任としては、NCGMから小原博先生が5月をめどに来られる予定です。小原博先生は、ベトナムでのプロジェクト経験も豊富で、ベトナム語も理解されます。

益々これからのプロジェクト活動の活発化と、チョーライ病院の発展を期待しています。また、私もなんらかの形でチョーライ病院を訪問することがあれば幸いです。

ありがとうございました。

2. 病院間搬送の安全面の向上に取り組んだ3か月を振り返って

JICA在外インターン(医療職) 稲田 麻衣

JICAインターンの稲田麻衣です。この3か月、プロジェクトで病院間搬送の安全面の向上に取り組みました。

1月と2月には、プロジェクトメンバーおよびカウンターパートの方々と一緒に Lam Dong 総合病院、Cai Lay 病院、Long An 総合病院、Ca Mau 総合病院、Tien Giang 中央総合病院の5つの省病院を訪問させていただきました。病院職員の方々には本当に快く受け入れて頂きました。

現場では救急外来や病院救急車を見学し、現在のチョーライ病院への救急車による患者搬送の状況についてお話を伺いました。どの病院も、搬送前に臨床的な評価を十分に行う、薬剤や医療器具のキットを用意する、トレーニングを実施するなど、安全な搬送のために様々な工夫をしていることがわかりました。

一方で、標準化された搬送前準備の手順がない、救急車内での患者の情報がチョーライ病院に十分に伝わらないなど、いくつか課題が見つかりました。

省病院訪問後、病院間搬送の現状を踏まえ、臨床現場で有用な手順書や記録表の作成を試み、プロジェクト内や救急外来の医師とディスカッションを重ねました。その結果、ベトナム語版の試作品の原案を作るまでにいたりしました。

私のインターンシップは3月31日をもって修了します。このチョーライ病院でのインターンシップは、私にとりまして今後のキャリアを選択する上で大変貴重な経験となりました。

チョーライ病院のカウンターパートの皆様、和田チーフアドバイザーはじめプロジェクト専門家チームの皆様、大変お世話になりました。この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました！



Cai Lay 病院で現地調査する稲田医師(中央)

3. 橋本理生短期専門家によるチーム医療の促進

2月26～3月2日、橋本理生短期専門家(国立国際医療研究センター呼吸器内科医師)が来訪し、①肺癌に関する多職種連携検討会(Tumor Board)について、継続的な活動となるよう支援を行い、②呼吸器サポートチーム(Respiratory Support Team)の活動に参加し、関係者に技術的な助言を行いました。

橋本専門家による前回派遣時(2017年8月)の活動に引き続いて、Tumor Boardについては、将来開催されるにいたった場合に積極的な役割が期待される各関係者と十分な意見交換を行いました。特に今回、チョーライ病院の Nguyen Truong Son 院長と対話する機会を得て、院長の考える Tumor Board のイメージについて確認することができ、さらには、院長から今後正式な形で Tumor Board を開催できるよう準備を進めるとの確約が得られました。

今回の橋本専門家の活動により、Tumor Board の正式な制度化に向けて、大きく前進したこととなります。橋本専門家には、今後も引き続き、チョーライ病院におけるチーム医療の促進活動にご尽力いただく予定です。



Son 院長と Tumor Board について対話する
橋本専門家(左端)

4. 町田二郎短期専門家がクリニカルパスについて講演

3月5日～10日、町田二郎医師(済生会熊本病院副院長)がプロジェクトの短期専門家としてチョーライ病院に来訪し、クリニカルパスについての技術指導および講演を行いました。

まず、3月7日には、チョーライ病院の看護師長を対象に、クリニカルパスの意義および済生会熊本病院におけるクリニカルパス活動の成果等について講演を行いました。

その中で、特に診療プロセスの標準化によって、抗生物質の使用法の標準化を達成し、院内感染対策に貢献できたこと、在院日数が短縮したこと、および看護記録が効率化され看護師の業務負担軽減に役立ったこと等が紹介されました。



クリニカルパスについて講演する町田専門家



病院の全体会議において講演する町田専門家

また、3月9日には、チョーライ病院の幹部管理者を対象に、クリニカルパスについての講演を行いました。

そこでは特に、クリニカルパスを推進するためには病院幹部の理解とリーダーシップが必要であり、推進組織の構築と担当者の長期任命、そしてクリニカルパス導入の効果を全部署に知らせる場、たとえばクリニカルパス大会の開催、等の重要性が紹介されました。

今回の町田専門家の活動により、今後、チョーライ病院内にクリニカルパス推進チームが作られることになり、モデルクリニカルパスの作成とその導入成果の検証を行っていくこととなりました。

今後の予定:

5月2日～9日 橋本理生 短期専門家(呼吸器内科・チーム医療、国立国際医療研究センター 医師)来訪
5月(予定) 小原 博 長期専門家(チーフアドバイザー)着任

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

チョーライ病院向け病院運営・管理能力向上支援プロジェクト

事務所: 10F, Block D, Cho Ray Hospital, 201B Nguyen Chi Thanh, District 5, Ho Chi Minh City, Viet Nam

Tel: 028 3620 5032 (直通) E-mail: chorayjica@gmail.com

ホームページ: <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/044/>



(編集責任: 業務調整 松本丞史)